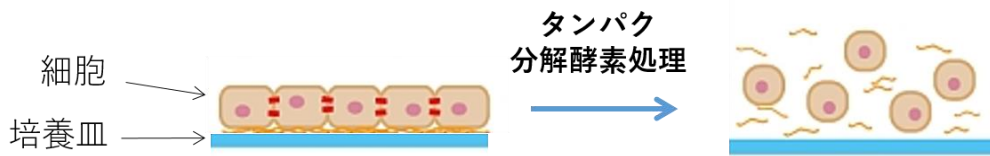




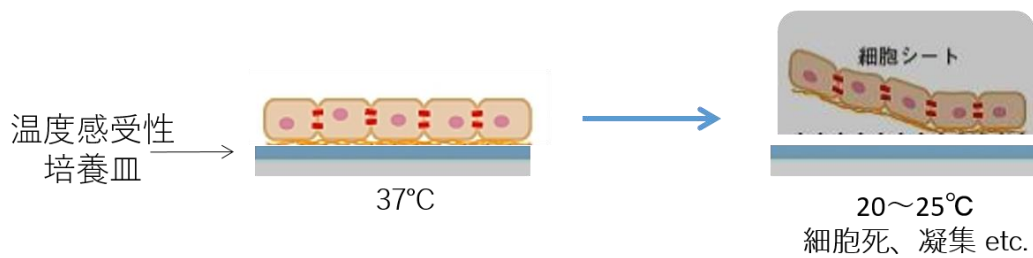
<図1>

問題点①トリプシン等のタンパク分解酵素処理によって細胞回収する場合、細胞間接着まで分解されてしまう。

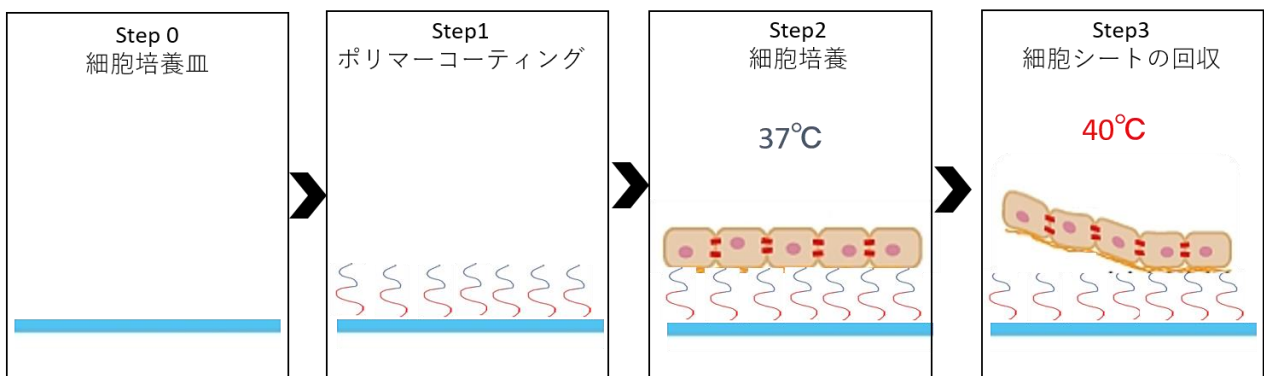


<図2>

問題点②温度感受性培養皿を使用する場合20~25℃に温度を下げる必要があり、細胞に低温負荷を与えてしまう。



<図3> 本発明の特徴



- ・特殊な培養皿を必要とせず、タンパク分解酵素処理不要で、細胞シートを回収することができる。
- ・温度を下げる必要がないため、細胞に低温負荷がかからない。